書写の知識を確認するための 問題サンプル

山梨大学教授 宮澤 正明

前回、書写の知識に関する学習内容を確認することは、書写力向上に寄与すると述べ、そのうえで、「書写の知識」の問題作成を試みていただきたい、とお願いをしました。そこで、今回は、サンプルとしていくつか紹介してみます。問題作成の参考にしてください。

【文字を書く姿勢について】

○文字を書く適切な姿勢として、①足の位置、②背すじの形、③左手の位置は、それぞれ次に示した図(省略)のようになります。なぜそのような位置や形がよいとされるのか、その理由を述べなさい。

【鉛筆の持ち方】

○鉛筆の適切な持ち方は、次の図(省略)の中でどれでしょうか。また、不適切な持ち方では、どのような影響が出ることが予想されますか。

○「広」の中心は一点目の点です。では内部の「ム」はどの位置に書くとき字形は整いやすくなりますか。実際に書いて、その位置を説明しなさい。また、その理由も述べなさい。

【行書について】

○次の文中、()の中に適切な語句を入れて文章を完成させなさい。

楷書を速く書くと、自然に点画に①()が出て、終筆の止めや払いなどに②()が生じます。また、点画と点画が③()したり、場合によっては点画が④()されたりもします。これらの速書きの特徴をもち、様式化された書体を⑤()といます。

答え.. ①丸み ②変化 ③連続 ④省略 ⑤行書

○次の楷書で示された語句の漢字を、行書に書き改めなさい。また、楷書と比べてどのような違いがあるか述べなさい。

ここで例示した問題については、教科書や学習指導書に詳しく解説されている部分があります。これらの例を参考に、学級や学校の実態に合った問題を作成していただきたいと思えます。

小学校国語科書写では、文字の骨格やその書き方の基礎・基本を中心に学習します。中学校国語科書写では、基礎・基本を踏ま

【筆順について】

○筆順と字形には深い関係があります。「右」と「左」それぞれの一点目と二画目は筆順が異なりますが、両者の筆順を示し、筆順と字形との関係について述べなさい。

○「成」と「原」それぞれの一点目と二画目に書かれる点画名を書きなさい。また、一点目と二画目の接し方はそれぞれどのようなになっているか述べなさい。

【点画の名称と筆使いについて】

○次の語の中で、一部点画が書かれていない漢字があります。その部分に点画を補い、その点画名を記しなさい。「見学」で「見」「学」それぞれの七画目を隠す、など)

○次に示した漢字には不適切な点画が書かれています。その点画に○印をつけ、正しい点画によって漢字を書き直しなさい。「心」のそりが曲がりや折れになっている、など)

○「お・す・み・む」にはそれぞれ「結び」の筆使いがあります。結びを書くとき、それぞれ三角形に書かれますが、それはなぜですか。毛筆のもっている機能や性質を考慮して述べなさい。

○「水」の一点目の縦画は、はねています。これはねた筆先は次にどのような動きをするのか、平面上に点線で示しなさい。また、なぜはねる必要があるのか述べなさい。

【字形 組み立て方を主に】

○「土」が土偏に、「木」が木偏になるとき、それぞれの形は変化しますが、共通する変化はどこなところですか。「土地」、「木村」を楷書で書いて説明しなさい。

え、書写活動の目的や場面に合わせながら適切に書くことができ、能力を養うことが求められています。

今日の社会生活における手書き文字の量は、社会のIT化とともに減少傾向にあります。義務教育において、書写は軽視できない学習であると言えます。それは、これまでにも述べてきたことですが、

- ・手で文字・文を書くことが記憶力に関わること
- ・指先の巧緻性を向上するために筆記具を用いることが有効なこと
- ・手書き文字には、文字の意味する内容だけでなく、書き手のそのときの心情や状態などが付加されやすく、書かれた文字・文以外の情報が加わること
- ・手で文字を書くことが「書」という芸術にもなりうる文化としての行為であること

などです。

このように、書写力は、国語力の一つである文字言語運用力として、人が生きていくうえで必要不可欠な能力であることを忘れてはならないでしょう。

新学習指導要領の方向性が示されようとしている今、改めて、中学校国語科書写の意義・目的を確認するとともに、生徒の書写力向上のための授業、文字環境を学校全体で見つめていただきたいと思います。